

◎文
レタリング・中山
典科(NDCグラフィック)

◎写真
柏尾安希子
清水由美子



のむら・みちこ

声優。1938年、横浜市神奈川区で生まれる。現在も横浜在住。神奈川学園高校卒業後、東京アナウンスアカデミーを卒業。

主な出演作は、ドラえもん(源静香)、サザエさん(磯野ワカメ)、みつばちマーヤの冒険(マーヤ)など。「ハッピーバースデー」は全席指定3000円。

t v kチケットカウンター 0570(00)3117。

アマト 村道子

実母に愛されず傷ついた少女の再生の軌跡を通して、児童虐待やいじめを問いかける朗読劇「ハッピーバースデー」をII自ら企画して出演写真。「親子の愛や友達同士の愛をもう一回見直し、考え方にしてもらえば」と話す。

月27日、川崎市多摩市民館で上演する。

朗読劇で 愛見直して



原作は、青木和雄、吉富多美共著の有名児童書。最初は、「人づてに」「読んでみませんか」と渡された。夜に時間が過ぎたので何げなく手に取ると、止まらないくなってしまった。泣きながら3時間で読み通してしまったという。その後、「朗読劇になるかな」と思いながら再びページをめくると、出演する声優が鮮明に頭に浮かんできた。企画が一気に進んだ。

初めて出演者が顔を合わせ、けいこをした日は、台本を読みながら全員が立った。今回で5回目の公演となるが毎回、反響に驚かされる。「リピーターが多い。(回収された)アンケートがすごく多く、分厚くて、50年やっているけどこんなのが初めて。裏までびっしり書かれているもの

のものあつて、体験談があつて。やつてよかつたなあと思いますよね」アーメ「ドラえもん」のしづかちゃん役など、誰でもその声を知るほどの声優だが、今は第一線を退き、自ら校長を務める声優養成所「スクールデュオ」で後進を育成する。アイドルのような人気を誇るスターも出るなど、声優人気が高まる中、新年度の生徒は定員40人にに対して900人が応募した。これから、全国でオーディションを行うといふ。

声優人気の背景には、アーメスームがある。「何をやりたいの?」と聞くと、みんなアーメ。『今までアーメで夢を与えてもらったから、今度は夢を与える』って同じ」と言うんですよ」マニュアル的な发声も目立つ。既存の声優のまねが圧倒的に多く、みんな同じような声になる。「困ってる。どうやって、それを壊そつかと」と苦笑する。

本来は演技力が第一に求められる仕事。「さめざめと泣く」と台本にあれば、前後の文脈を読んで自分なりの演技をしてもらわなければならぬのだ。

「40人とっても、おもしろいなあって子は3人ぐらい。それでも御の字。(声優)になれたとしても、プロとして生活できるかってことはまた違う。そこが難しいところ」と業界の厳しさを語った。

お 氣 に 入 り

「追っかけ」をしているという。『グラシック界のジミヘン』ともいわれるバイオリニスト・吉田直矢。「すごくうまいんですけど、なんだうなあ、しびれるのね。フフフ」。その情熱的な演奏に出会ったのは、3年前。ここに5月には自らプロデュースし、コンサートを実現させた。これからも「追っかけを」続けます」と、高らかに宣言。

記者の一言

取材を申し込む段階から、ワクワク。受話器ごしの声は、まさしくテレビで親しんだものだった。「本当にしづかちゃんの声ですね!」と、思わず叫んでしまった。

しづかちゃん、ワカメちゃんと国民的アニメの主要な役を担当し、「今でも恩恵にあずかっています」と笑う。「どこでも大事にされてね」

以前、40代の男性インタビュアーに「かわいいですよね」と言われたという。「これも恩恵。うれしかったですよ。アッハッハッ」確かに、実際にそのほがらかさに接すると「かわいい」という言葉が自然に浮かぶ。

日本の声優の歴史を切り開いた一人。声優とはどういう仕事か、と質問すると「ほかの仕事をしたことがないので分からない。でも、すっこい楽しかった」と、少女のような笑顔を見せた。